

授業科目名	分娩期のアセスメントとケア <i>Intrapartum Assessment and Care</i>		担当教員	石山 さゆり	
開講年次	1年通年	セメスター	1・2	時間数(単位数)	30(2)
必修選択	専攻領域必修	授業形態	講義・演習	使用教室	
授業の目的	産婦が身体的・心理的・社会的に健康であるか、また正常からの逸脱の有無をアセスメントし、産婦とその家族が安全・安楽に出産するために必要な能力の習得を目指す。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正常な分娩経過と正常からの逸脱を診断できるための基礎知識を習得する</li> <li>2. 分娩期のアセスメントをもとにケア計画が立案できる</li> <li>3. 分娩介助技術を習得する</li> <li>4. 出産が正常に経過するために必要なケアを説明できる</li> </ol>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1回 分娩期の助産診断とケア(1) 分娩期の助産過程の特徴 初期診断に必要な情報(石山)</li> <li>2回 分娩期の助産診断とケア(2) 母体状態、胎児の状態のアセスメント 初産婦事例(石山)</li> <li>3回 分娩期の助産診断とケア(3) 分娩期のケア(石山)</li> <li>4回 分娩期の助産診断とケア(4) 産婦の心理・社会的アセスメントとケア(石山)</li> <li>5回 分娩期の助産計画(自然分娩、分娩促進、前期破水、GBSなど)(石山)</li> <li>6回 分娩介助法(1)(石山)</li> <li>7回 分娩介助法(2)(石山)</li> <li>8回 分娩介助法(3) デモストレーション(石山)</li> <li>9回 分娩介助技術評価(物品の準備 分娩野作成まで)(石山 永松)</li> <li>10回 分娩介助技術評価(分娩介助)(石山 永松)</li> <li>11回 産痛の意味と緩和法(石山)</li> <li>12回 出産の促進のためのケア(石山)</li> <li>13回 正常な経過からの逸脱またはハイリスク産婦・胎児のアセスメントとケア(1) 胎児心拍のアセスメント(石山)</li> <li>14回 正常な経過からの逸脱またはハイリスク産婦・胎児のアセスメントとケア(2) 分娩誘導、回旋異常、吸引分娩、産科異常出血(石山)</li> <li>15回 フリースタイル出産(演習)(石山)</li> </ol>				
学習方法	<p>周産期学(正常編、異常編)、女性のフィジカルアセスメントの知識を用い、産婦・胎児をアセスメントしケアを行うための思考過程を学ぶ。それらを踏まえ、分娩第1期から4期までの母児の事例のアセスメントを行い、ケア計画を立案する。助産診断類型の診断項目を記述することを事前課題とし、診断に必要な周産期学知識の小テストを講義前に行う。</p> <p>分娩介助法を学習する前の準備として、骨盤模型を用い分娩機転がシュミレーションできるように自己学習しておく。基本的な分娩介助技術を習得するために、練習を重ね技術試験に臨む。</p>				
オフィスアワー	木曜日の昼休み、もしくは事前にメール(石山:s-ishiyama@jrckicn.ac.jp)にてアポイントを取って下さい。				
テキスト	<p>我部山キヨ子他:助産診断・技術学Ⅱ(2)分娩期 産褥期 第5版. 東京, 医学書院, 2013.</p> <p>進純郎:分娩介助学. 東京, 医学書院, 2005.</p> <p>進純郎:正常分娩の助産術. 東京, 医学書院, 2010.</p> <p>京都産婦人科救急診療研究会編著:母体急変時の初期対応. メディカ出版, 2015.</p> <p>村上明美:仰臥位分娩介助技術 DVDで学ぶ助産師の「わざ」熟練の技を求めて. 医歯薬出版, 2015.</p>				
参考文献	<p>村上明美:フリースタイル分娩介助. 東京, 医歯薬出版, 2009.</p> <p>平澤美恵子:写真でわかる助産技術. 東京, インターメディカ, 2012.</p> <p>Andrea, R: <i>The Midwife Companion</i>. 2004, 大葉ナナコ訳:心に寄り添う助産技術実践テキスト. 東京, メディカ出版, 2007.</p> <p>藤田八千代:臨床助産婦必携. 東京, 医学書院, 1999.</p>				
評価方法	筆記試験(90%)、技術試験(10%)				